

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年1月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、1月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 「魅力発信！えひめ農業NOW（1月分）」

### 東予地方局 地域農業育成室

#### ■若手農業者の個別マッチングを支援

- 地域農業育成室は、若手農業者の技術力と経営管理能力の向上を目的に、農業プロとの個別マッチングを支援している。
- 1月4日、アスパラガス栽培2年目の若手農業者が、農業プロから土木機械バックホーの使用方法を学びながら、ほ場の排水溝を設置した。
- 今後も、農業プロが排水に対する指導を行い、若手農業者が作業ごとにアドバイスを受けることとなった。
- また、1月14日、同若手農業者はアスパラガスを栽培する就農4年目の先輩若手農業者を訪問し、作業のポイントや農薬の効果的な使用方法、栽培品目について相談した。
- 若手農業者は栽培技術等で悩んでいることが多いため、当室では今後も身近に相談できる相手とのマッチングを支援していく。



先輩若手農業者との個別相談

## ■ニホンザル対策実施に向け箱わな設置

- 地域農業育成室は1月26日、新居浜市船木地区でニホンザルの被害対策として小型箱わなの実証設置を行い、地域リーダーや猟友会員、関係機関職員の8人が参加した。
- 当地区では、近年、イノシシやサルによる農作物被害が増加傾向にあるため、集落見回り活動を実施し、集落住民・農業者に鳥獣害対策の意識啓発などを行ってきた。
- 当日は、新居浜市及び愛媛県猟友会東新支部と連携して、12月に製作した「小型箱わな※」の設置場所の検討と設置指導を行った。
- 設置した周辺にはサルによる柑橘の新しい食痕があり出没頻度も高いと推測されることから、当班はセンサーカメラ等を活用し箱わなや周辺へのサルの出没状況を確認しながら、猟友会員及び関係機関と連携し、鳥獣被害軽減に向けた実証を進めていく。



サルによる柑橘の食痕



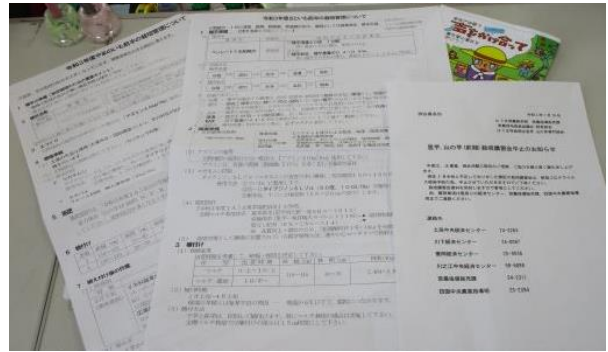
箱わなの設置指導

※「小型箱わな」：農林水産研究所の「中型獣用簡易箱わな」を中予地方局産業振興課地域農業育成室が改良したもの。

## 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■特産野菜前期栽培（さといも・やまのいも）資料のDM対応

- 四国中央農業指導班は1月18日、JAうま営農指導販売課と連携し、特産野菜前期栽培指導資料を栽培予定者350名にDM（郵送）で情報提供した。
- これは、例年2月に翌年産特産野菜の生産・品質の安定化による産地強化を目的に、栽培開始時の要点について講習会を開催していたが、新型コロナウイルスの感染予防対策として新たに実施したものの。
- 配布資料は、①愛媛さといも広域選果場の状況、②さといも・やまのいもの生育初期の栽培管理方法、③農作業安全啓発の3種類。質問等の連絡先には当班とJAうま各経済センター（5ヵ所）を明記したため、1月25日から、品質低下要因や土づくり対策等の質問が寄せられている。
- 当班は、今後も継続して技術指導を行い地域特産野菜の生産・品質の安定化を目指す。



配布したさといも・やまのいもの指導資料

※四国中央地域における特産野菜の講習会は、年3回（5、7、2月）開催。  
今回のDMは、紙ベースでの情報提供と栽培者からの質問対応により、当班及びJAうまと栽培者との双方向のやり取りを図るため、初めて実施。

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■高糖度の「寒じめいちご」が出荷開始

- 産地戦略推進室はJA東予園芸と連携して、県育成品種の「紅い雫」のブランド化を目指して、通常よりも糖度を高め食味にこだわった「寒じめいちご」栽培を推進している。
- 令和2年産は2戸3aで栽培されており、栽培架台に光反射シートを展張して着色向上も促進しながら、品質向上に努めてきた。
- 糖度が15度程度になった「寒じめいちご」は関西方面へ出荷し、通常価格の2倍以上の価格で販売されており、農家の所得向上につながっている。



寒じめいちご

## 東予地方局今治支局 地域農業育成室

### ■新規就農者、かんきつの低コストハウスを学ぶ

- 地域農業育成室は1月23日、今治市大三島でかんきつ栽培に取り組む新規就農者（次世代人材投資事業経営開始型の受給者など）5人に対し、かんきつ低コストハウスの勉強会を開催した。
- 当日は、低コストハウス<sup>\*</sup>を導入している農家ほ場で、当室職員が所得向上に向けたハウス栽培の取組を説明。
- 参加者は「ハウス栽培を導入したいが、今までのハウスは経費が高く（800万円/10a）なかなか取り組みにくかった。しかし、今回見た低コストハウスは経費が安く（200万円/10a）取り組み易いので参考になった」、「今後は低コストハウスを導入し所得向上を目指したい」と意気込んでいた。
- 当室は今後も新規就農者に対し施設と露地を組合わせた栽培を進め、新規就農者の定着と経営安定を図っていく。

※低コストハウス：“運動会テント型方式” “一列コンパクト型方式” “二列フルオープン型方式” など。



低コストハウスを学ぶ



運動会テント型（左）、一列コンパクト型（右）

## ■青年農業者、鳥獣害対策に取り組む

- 地域農業育成室は1月20日、鳥獣害対策の技術習得に意欲的な今治市青年農業者協議会員4人を対象に鳥獣被害軽減に向けた対策技術研修会を開催した。
- 当日は、水稻及び野菜の被害を受けている会員の現地ほ場で、ほ場外周の獣道にセンサーカメラを設置し、加害動物を特定して対策を講じることとした。
- 当室は、今後も適切な鳥獣害対策を提案するとともに、会員同士でオンライン等を利用し情報交換できる場を設ける。



被害園地周辺の獣道を確認



センサーカメラの設置指導

## ■農業担い手育成及び魅力発信活動「花木収穫・アレンジメント体験会」の実施について

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は1月19日、今治南高等学校、今治CATV、JA等と連携し、同校園芸クリエイト科2・3年生（8人）を対象に花木園地（今治市玉川町）での収穫と同校内でのアレンジメント制作体験会を実施した。
- 生徒は、管内で推進している「ビブルナム・ティナス」等の収穫体験や生産者へのインタビュー、収穫した花木を使ってのアレンジメント制作を通じて、産地の取組や花木の活用を学んだ。
- 生徒からは「知らなかった今治の農業を体験することで、より身近に感じられた」、先生からは「教育効果の高まりが期待できる」等の評価を得ており、両室は次年度も魅力発信活動を継続し、高校生の就農意識の向上を図り、将来の担い手育成と地域農業の振興につなげることにしている。
- なお、今回の活動は、1月20日の日本農業新聞に掲載されたほか、1月29日から今治CATVの「しっとん?30'」で放送予定（約1か月間のリピート放送）。



普及指導員から生徒への収穫指導



制作したアレンジメント



活動動画  
(YouTube)へ  
(24秒28MB)



## ■地域農業の担い手を対象とした、土づくりセミナーを開催

- 地域農業育成室は1月20日、青年農業者の経営能力向上を目的に経営支援講座(土づくりセミナー)を開催し、青年農業者・女性農業者等15人が参加した。
- セミナーでは、愛媛大学大学院農学研究科上野教授(農林水産省が土づくり専門家として認定)を講師に迎え、土壌の成り立ちや役割、基礎的な土づくりについて研修した。
- 参加者からは、「改めて土づくりの重要性を学ぶことができた」、「理解を深めるため今後も勉強を続けていきたい」といった感想があった。
- なお、今回から、オンライン受講が可能になり、1人がオンラインで受講した。当室は、今後とも受講体制の改善に取り組み、参加形態の多様化を進めていく。



当日の様子

## ■さといも「今治モデル」の提案と高品質種芋の生産システム作り

- 地域農業育成室は、12月25日のさといも栽培講習会で、将来にわたる持続的な産地推進を図るために今治地域独自の概念「今治モデル」（下図参照）を提案した。
- その実現に向けて、次年度から「親芋の副芽を利用した優良種芋大量増殖技術」を利用した高品質種芋生産に取り組むべく、1月13日のJA営農指導課・全地区担当職員との推進会議及び1月18日のさといも部会臨時役員会で協議し、以下のとおり初年度のスケジュールと高品質種芋栽培候補者5人を決定した。
  - ※4月頃から今治市玉川町の育苗温室で取組開始。資材等費用は「伊予美人」の許諾者であるJAが負担し、生産を栽培者に委託。
  - ※栽培候補者は役員2人と取組に協力的な部会員3人（乃万・玉川・菊間地区で各1人）。
  - ※今治地域では、定期的な高品質種芋更新スキームに基づき、年間9t以上の種芋量が必要であるが、JA全農えひめが県内全産地に供給可能な総種芋量は年間15tであり、今治地域独自の種苗生産が必要である。
- 今後、早急に種芋生産に係る具体的な手順書等の作成を行うとともに、JA及び部会と一体となって「今治モデル」実現に向けた取組を推進する。

### 今治モデル

- ①今治地域では、さといもが土地利用型高収益作物として導入された  
（宇摩地域では、やまじ風に耐える土の品目であるさといも(蓮葉芋系)を導入)
- ②本格的な営利栽培を開始して8年目  
（宇摩・新居・大洲地域では、昭和中期には産物となる）
- ③集落組織や法人の安定経営を図る重要品目  
（主要なさといも産地では、個人生産者が1ha未満で栽培）

従来の産地とは異なる背景と方向性

米麦栽培と同レベルを目指す省力的生産体系

多種多様な栽培環境に対応できるよう原理原則を重視した技術指導

- ①水稲栽培と両立可能な省力的かつ弾力性を持った栽培管理作業
- ②農作業機械の積極的な導入
- ③高品質種苗の生産や利用および定期的な更新
- ④データ分析に基づいた生産技術の見える化

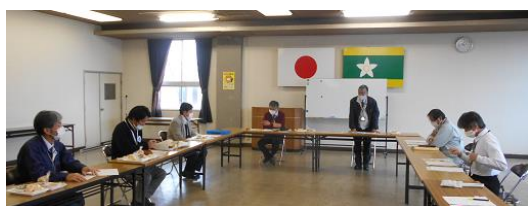
提案した「今治モデル」



さといも部会臨時役員会での協議

#### ■第4回今治地区農産物地産地消推進緊急プロジェクトチーム会の開催

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は、新型コロナウイルス感染症による農家への影響を把握するため、1月22日、第4回今治地域農産物地産地消推進緊急プロジェクトチーム会を開催し、JA、市、県の関係者8人が参加した。
- JAからは、地元農産物の販売状況について、帰省客が少なく年末年始の産直市での販売が低調で、特に高額な農産物（高級和牛）の販売不振が顕著であるとの報告があった。
- 一方で、今治産小麦粉の一般消費者向け小袋（1kg）は昨年12月22日からJAおちいまばりとJA今治立花で販売が始まり、順調に売上げが伸びているとの報告もあった。
- 両室からは、市内の菓子製造販売店に利用拡大を働きかけた結果、新たに2店舗で今治産小麦粉を使った新商品が発売されることとなったことも報告した。
- 今後は、同会メンバーが影響のあった農産物や今治産小麦の需要拡大を進めることにより、さらなる地産地消を進めていくことを確認した。



会議の様子



新しい商品

## 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■果樹園巡回相談フォローアップ

- しまなみ農業指導班は1月18日、12月に開催した新規就農者の果樹園診断巡回指導のフォローアップとして、指導要請のあった新規就農者2人に対し、技術指導を行った。
- 新規就農者からは、「起伏も大きいほ場で労働生産性を考えた植栽方法を指導してもらい、これからの新植の目安が立った」、「栽培計画の相談にも乗ってもらえ、経営計画に自信がついた」との感想があった。
- また、キウイフルーツを栽培する新規就農者からは、「2・3月の管理技術の指導をほ場で受け、実際の作業を見て注意すべきことや効率的な作業方法などを指導してもらえ、とてもよかった」との感想が聞かれた。
- 当班は、新規就農者の栽培技術の向上と作業能率を考えた園地づくりを進め、新規就農者の定着と経営安定を図っていく。



伐採したほ場で作業動線を検討



キウイフルーツの整枝のコツを指導

### ■夏季レモン栽培について栽培実証農家と意見交換

- しまなみ農業指導班は1月13日、岩城駐在所ほ場において、局予算で夏季レモン栽培の実証ほを設置した農家3戸と意見交換を行った。
- 岩城駐在所では、一昨年からこの実証に取り組んでいることから、当班の職員が栽培管理法とその結果について説明した。
- 3戸の実証ほでは、ほぼ収穫が終わり、今後、ハウス内の温度を上げて開花を通常より2～3か月促進させ、8～9月の収穫を目指すこととしている。
- 実証農家から「今までの管理と違うので温度管理はどうしたらいいのか」、「防除はどうしたらいいのか」といった質問があり、栽培意欲の高まりが感じられた。
- 今後は、夏季レモン生産に向けた管理方法について巡回指導を行い、技術の定着と目標収穫量の確保を目指す。



夏季レモン栽培実証ほでの意見交換

## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■県養鶏研究所と連携したしまなみ産オリーブの新たな活用に向けて

- 産地戦略推進室は、1月19日、しまなみ産オリーブの付加価値向上の一環として、県畜産研究センター養鶏研究所と、産卵鶏へのオリーブ枝葉粉末給与について検討を行った。
- 同研究所の担当者から、予備試験として剪定したオリーブ枝葉を老鶏に給与したところ、条件によっては産卵率や卵質の向上が見られた旨の報告があった。
- また、次年度の効率的な活用に向けて意見交換を行い、オリーブ枝葉の供給方法や給与試験方法等について情報共有を図った。



給与に向けて意見交換の様子

### ■醸造用ぶどう‘マスカット・ベリーA’の栽培技術研修会を開催

- 産地戦略推進室は1月21日、醸造用ぶどう栽培の技術力向上を図るため、第3回目の栽培技術研修会を開催した。
- 研修会には、来年度から栽培に取り組む生産者や、醸造用ぶどうに関心のある地元農業者等7人が参加。
- (株)大三島みんなのワイナリーの担当者が、主要品種‘マスカット・ベリーA’のせん定方法を説明。参加者は、実際にせん定作業を行い、枝を切るポイント等について理解を深めていた。
- また当室からは、関係機関と協議して作成した「醸造用ぶどう栽培指針」を配布し、多収生産に向けた栽培管理について指導した。



せん定方法の説明



栽培指針の説明

## ■しまなみ産オリーブオイルの品質向上を目指し研修会を開催

- 産地戦略推進室は1月27日、高品質なオリーブオイルの製造に向け、オリーブオイルソムリエを招いて品質評価研修会を開催し、製造者、市、JA、農林水産研究所等20人が参加した。
- 会では、収穫時期別のオリーブオイルについて、ソムリエが官能検査を、農林水産研究所がポリフェノール含量を分析した結果を報告した。
- ソムリエからは、「10月に早摘みしたオリーブを原料としたオイルは、ポリフェノール含量が多いため苦味や辛みが強く、収穫最盛期の11月に収穫したものは、フルーティーな香りが強い等時期によって差があり、特徴として活かしていくべきである」とのアドバイスがあった。
- 意見交換では、次年度のオリーブオイルの製造・販売について、これらの特徴を生かした商品開発を図り、積極的にPRしていくことを申し合わせた。



オリーブオイルソムリエによる官能検査



意見交換

## ■新規オリーブ栽培希望者説明会の開催

- 産地戦略推進室は、1月28日、今治市大島でのオリーブ栽培を促進するため、同市吉海町で栽培説明会を開催し、島内外を含め20人の参加があった。
- 会では、当室からしまなみ地域でオリーブ栽培するメリットを、また、地元のNPO法人からオリーブ栽培・加工の実践について説明した。会終了後の個別相談では、次年度にオリーブ栽培を希望する地元企業や生産者から苗の確保や助成等について相談があった。
- 参加した栽培希望者はオリーブに強い関心があることから、引き続き情報提供を行いオリーブ栽培への誘導を図ることとした。



説明会の様子

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■かんきつ庭先選別の省力化を検証

- 地域農業育成室は1月6日、松山市興居島のかんきつ農家で、局予算事業「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」の一環として、画像解析選果機による庭先選別の省力化を検証した。
- 12月に収穫した伊予柑を同選果機で階級や等級別に選果し、従来の手選果と比較した。
- 60コンテナ分の選果時間は、同選果機（1時間20分、3人）が手選果（1時間5分、2人）より15分長くなったが、生産者からは、「目・首・肩・腰の疲労が軽度で毎日続けても苦にならない」との声が聞かれた。また、多くの品種に対応でき、品質も揃うことで評価点が高くなるなどの効果がある。
- 当室は、今後も導入農家やメーカーと連携し、他の農家へも普及できるよう改良や有効性を検証する。



1人が選果レーンに乗せ、2人が選果された果実をコンテナに詰める。

### ■いちご「紅い雫」高収益モデル実証ほの生育良好

- 地域農業育成室は、12月から東温市に設置しているいちご「紅い雫」の高収益モデル実証ほで、飽差<sup>※</sup>管理と日中炭酸ガス施用（環境制御）の実証を開始した。
- 実証ほでは、厳寒期でも生育の停滞が見られず、果実肥大が良好など環境制御の効果が現れている。
- また、管内の栽培農家22戸を対象にリアルタイム栄養診断による追肥指導を行っており、生育状態の見える化によって追肥の散布時期や量が判断できるため、生産者から好評を得ている。



リアルタイム栄養診断

※飽差：空気中にと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す数値。飽差を適正に管理すると光合成が促進される。

## ■さといもの産地拡大に向けて

- 地域農業育成室は1月28日、JAえひめ中央東部営農支援センター会議室で、さといもの新規栽培者等36人を対象に栽培説明会を開催した。
- 当室からは、栽培管理のポイントや種芋確保について、JAからは契約栽培の取組状況や機械化一貫体系について説明した。
- 同JAの東部管内では、今年からさといも「伊予美人」の契約栽培を開始しており、今後も関係機関が連携し、機械の共同利用や農福連携による作業支援等に取り組む。



栽培管理のポイントを説明

## ■サルの適正管理に向けて現地調査開始

- 地域農業育成室は1月26日、松山市伊台地区で地元住民、関係機関等8人とサルの行動圏調査に係る打合せを行った。
- 調査は、1月28日～2月にかけて、捕獲委託業者がサルを捕獲し、GPS首輪を装着した後、約1年間追跡調査を実施する。
- 調査結果を基に、サルの移動範囲や出没時期、農作物の被害状況ととりまとめ、同地区のサル被害防止対策のステップアップを図る。



行動圏調査の現地打合せの様子



## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■（農）ななおれ梅組合と就労支援施設が連携

- 伊予農業指導班は1月19日、（農）ななおれ梅組合員3人と近隣の就労支援施設の職員2人をマッチングし、同組合の梅園管理作業の補完に向けて、現場の確認と打合せを実施した。
- 同組合員は、組合の梅園の管理以外に自己の梅園やかんきつ園などの作業があり、冬季の栽培管理で労働力不足となっているため、当班が就労支援施設との連携を働きかけたところ、剪定枝の片づけ作業を委託できないかと相談があり、今回、作業内容をお互いが確認した。
- 同施設では、現在、コロナ禍の影響で現場での作業ができないが、今後、積極的に施設外就労に取り組みたいとの意向を示していることから、当班は他の作業も含めて農福連携がスムーズに実施できるよう支援する。



施設職員に作業内容を説明する組合員

### ■サラリーマン等を対象とした就農相談会を開催

- 伊予農業指導班は、1月24日の日曜日にサラリーマンなど、平日の相談が困難な人を対象に就農相談会を開催した。
- 当日は、5組が相談に訪れ、個別に就農支援制度や研修の受入先、就農計画策定方法などを説明した。
- 相談者は、県外からの移住とともに農業を志している人や、将来、父の経営を引き継ぐ予定の人などがおり、相談内容も様々で、個々が求める疑問点や不安点が解消できるよう対応し、今後も就農に向けサポートを行う。



就農相談者に制度の説明をする職員

## ■一次産業女子グループ“葉れるや”がグループのロゴを作成！

- 伊予農業指導班は1月15日、伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」（メンバー4人）のネットワーク活動を支援するため、組織のロゴを作成するデザイン研修会を開催した。
- 会では、広告デザイン関係者の指導により色彩や書体、モチーフなどデザインの基本を学び、互いにモチーフを検討した後、各自でデザインを作成した。
- 各自のデザインを評価した結果、最終的にグループ名に込められた「晴れた空の下で成長する葉っぱ」のイメージとして、そらまめの葉と花をモチーフにしたデザインに決定した。
- 参加者からは、「ロゴの一つ一つに意味があることが分かった」、「マルシェが再開できるまでにデザインを完成させ、タペストリーを作りたい」などの意見が聞かれた。
- 当班は、ロゴデザインのブラッシュアップやマルシェ等で使用するロゴ入りタペストリーの制作などを継続して支援する。



メンバーがロゴデザインについて検討

## ■佐礼谷猟友会、視察研修会でイノシシの処理方法を学ぶ

- 伊予農業指導班は1月13日、「鳥獣管理専門員育成事業」の一環で、佐礼谷猟友会員6人を対象に、松山市北条地区のイノシシ解体施設の見学とくくりわなの技術習得に向けて研修会を開催した。
- 同解体施設では、参加者からイノシシの解体に係るコツや保存方法等について積極的に質問し、「今後の処理方法について参考になった」との声があった。
- また、くくりわなの現地研修では、北条猟友会から、浅海地区の柑橘園地で獣道の確認方法やわなの仕掛け方のコツ等について細かく指導を受け、参加者は実践に向けて意欲的であった。
- 佐礼谷地域での鳥獣対策意識は徐々に向上し、防護柵の設置や捕獲数も増加しており、地域ぐるみの取組が活発化している。



解体場での研修の様子

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■久万高原清流米におけるトビイロウンカ対策に向けて

- 久万高原農業指導班は1月14日、久万高原清流米実績検討会において、来年度のトビイロウンカ対策を啓発した。
- 当班が昨年度の水稲成熟期（9月上～下旬）に実施したトビイロウンカの調査では、水田内に飛来が確認されたものの、坪枯れが発生する前に収穫を終え被害はなかったが、今年度は収穫遅れの水田で坪枯れが発生したことから適期収穫の徹底を指導した。
- また、トビイロウンカの飛来時期や増殖のサイクル等の生態について説明し、注意喚起した。
- 久万高原清流米は、特別農産物認証制度（化学合成農薬や化学肥料を5割減）で栽培しており、使用農薬が限られていることから、ウンカ等の病害虫の発生状況を把握しながら良品米の生産を指導する。

### ■ピーマンの初期摘果による生産性向上実証の結果を報告

- 久万高原農業指導班は1月12～28日にかけて、ピーマン部会各支部の実績検討会で、ピーマンの初期摘果が生産性に与える影響について報告した。
- 実証ほ場において、試験区は第3分枝まで、慣行区は第2分枝まで摘果し、1株当たりの着果数と10a当たりの収量を比較したところ、いずれも試験区が慣行区を上回った。
- また、茎径と着果数には相関がみられ、高収量（9t/10a）を達成するために必要な茎径と摘果程度、枝の誘引の有無が、生産性に影響していることも明らかとなった。
- これらの結果は、現在改訂中の栽培マニュアルに新たに採り入れ、農家の生産性向上に役立てる。



ピーマン部会で実証結果を説明

## ■青年農業者らがイノシシ用箱わなを手作り、郷土料理も学ぶ

- 久万高原農業指導班は1月28日、久万高原町青年農業者連絡協議会を対象にイノシシ箱わな製作や郷土料理講習会を開催した。
- 近年、イノシシなどの獣害被害が多いことから、同会員が、箱わなを手作りしようと集まった。箱わなづくりを習得している会員が講師となり、ワイヤーメッシュなどを溶接し、低価格で製作した。箱わなは、狩猟免許を取得している会員がイノシシ被害の多い地区に設置する予定である。
- また、女子会員は地元の生活研究協議会会員を講師に迎え、「はなこ練り汁」や「とうきびご飯」、「ぜんまいの白和え」、「いたんぼ炒め」づくりなどを実習した。
- 同協議会は町外からのIターン者が多く、今回作った郷土料理を食べるのは初めてで、「とろみがついていて体が温まる」、「春になったらぜひ作りたい」など好評であった。



箱わなを製作する青年農業者



講師から郷土料理を学ぶ

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■東温市内の飲食店で東温パクチースタンプラリーを開催

- 産地戦略推進室は12月の1ヵ月間、「東温パクチー産地づくり事業」の一環として、東温市内の飲食店8店舗で「東温パクチースタンプラリー」を開催した。
- スタンプラリーでは、スペイン、イタリア、中華料理と多彩なジャンルの店舗が参加し、オリジナルパクチー料理を提供。パクチー料理を注文し、スタンプが2個以上になった方の中から抽選で15人にパクチーグッズや甘平を贈呈した。
- 飲食店からは、「また参加したい」、「通常メニュー化も検討したい」と来年度につながる前向きな感想が聞かれた。また、来店客からも「パクチーは苦手だったが、これなら食べられる」とパクチーファンの掘り起こしにつながった。
- 当室では、引き続き「東温パクチーの産地づくり」に向け、パクチーの利用拡大、認知度向上に取り組む。



パクチーラーメンと  
パクチー餃子セット

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■宇和島市女性農業委員等の集い開催

- 地域農業育成室は1月5日、新たに選出された宇和島市女性農業委員等4名を対象に、女性農業者として活動するための資質向上を目的とした「宇和島市女性農業委員等の集い」を開催した。
- 同市農業委員会は、合併以前の旧4市町単位で女性委員を選出（任期3年）しており、11月1日の改選で、女性の農業委員2人（新規2人）、農地利用最適化推進委員2人（新規1人）が就任。
- 「集い」では、女性の活躍の場をさらに広げるため、退任した女性委員等を交えたネットワーク活動の展開や若手農業者の育成、剪定技術等のスキルアップ活動等について協議した。
- 当室は引き続き、農業に従事し前向きに活動する女性農業者がいきいきと活躍できる体制づくりに関係機関と連携して取り組む。

### ■認定新規就農者を対象に鳥獣害対策講座を開催

- 地域農業育成室は1月28日、鳥獣被害の対策技術向上を図るため、認定新規就農者を対象に鳥獣害対策講座を開催し、2名が参加した。
- 講座では、当室が被害防止における防護柵や捕獲の推進、集落体制づくりの重要性について講義を行った後、宇和島地区猟友会員が、獣道の判別や急傾斜地におけるくくりわなの効果的な設置方法について実技講習を行った。
- 講座を通じて、参加者は新たに狩猟免許取得を希望し、本格的に被害対策に取り組む意向を示した。
- 当室は、今後も就農候補者に対する独立就農に向けた研修会や、果樹の接木方法に関する講座を計画しており、新規就農者の資質向上を図る。



くくりわなの設置方法を指導する猟友会員

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■排水対策を行った吉兆桃園で剪定指導を実施

- 鬼北農業指導班は1月12日、松野町農林公社と連携し、町内の加工用桃園「吉兆桃園」で、今年度から松野町の地域おこし協力隊員として活動し、将来は町内で桃栽培を開始する予定の男性に剪定指導を行った。
- 同園は、2年前から当班が中心となって、排水不良による樹の生育阻害対策として、基盤整備を進めており、今年度、排水方法に改良を加え、12月に約50本の苗を定植したことから、定植後の管理についても併せて指導を行った。
- 参加者は、「桃の収穫をしたことはあるが、剪定や定植後の管理について勉強したことが無いので、大変参考になった」と手応えを感じていた。
- 当班は、排水パイプの設置方法の違いによる排水機能の試験を実施しており、引き続き生育調査を行い、結果に基づいて排水対策マニュアルを作成し普及を図る。



吉兆桃園での剪定指導の様子



排水方法を改良した基盤整備桃園

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■ふるさと小包グループが起業 企業組合パトリッキング発足

○愛南農業指導班は、これまで「南宇和ふるさと小包便」に取り組む女性農業者で組織する「南宇和ふるさと小包グループ」（会員 10 人）を支援してきたが、高齢化による会員の減少や出荷物の安定出荷、収支の改善等が課題となっていた。

○このため、当班が、愛媛県中小企業団体中央会と連携し、10 月から収支の改善や農産物の安定出荷、法人化等の検討を続けていたところ、新たな会員 4 人（うち男性 1 人）が加入したことを機に法人化を決意。1 月 13 日に設立総会を開催し、企業組合「パトリッキング」が発足した（「パトリ」は郷土を意味するフランス語）。

○同組合は、「南宇和ふるさと小包便」の販売数の拡大や発送品の充実を図りつつ、新たな加工品の開発や総菜づくりにもチャレンジしたいと意気込む。

○当班は引き続き、愛南町農産物加工の中心的役割を果たす同組合の円滑な組織運営を支援する。



設立総会の様子



## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■愛南町産アボカドの認知度向上を目指して

- 産地戦略推進室は、愛南町産アボカドの認知度向上等を目的に次の取組を行った。
- 1月14日は、町立柏小学校の児童（22人）を対象に「アボカド教室」を開催。「NPO法人ハート in ハートなんぐん市場」の長野敏宏理事がアボカド栽培や農業の魅力について説明し、その後、園地で実際に木や果実を見て、触って、アボカドの魅力を体験した。
- 1月20日は、南宇和高校の「アボカド栽培プロジェクト活動」の一環で、栽培の知識・技術を習得することを目的に収穫作業体験会を開催。当室やNPO法人の担当者から品種特性や栽培技術について説明を受けた後、生徒3人がアボカドを収穫。
- 児童からは「将来、アボカドが愛南町の特産品になって欲しい」、高校生からは「特産の河内晩柑と比較しながら栽培特性などを評価していきたい」といった声上がり、今回の取組で愛南町産アボカドの魅力が伝わり、地域農業への理解を深める機会となった。
- 当室では今後も関係機関と連携して、アボカドの認知度向上や将来の担い手確保に向けた取組を進めていくこととしている。



児童らの園地見学



高校生による収穫

## ■春季摘心処理によるうめの冬季せん定の労力軽減へ

- 産地戦略推進室は1月21日、松野町のうめ実証ほ場で、春季の摘心処理（新梢の先端を切除）による冬季せん定の労力軽減効果について調査。
- 町内の南高梅では、春季に発生した新梢が徒長し、樹形を乱す原因となることから、冬季のせん定時に取り除いているが、その作業には多大な労力を要している。
- 調査の結果、昨年5月に摘心した区では、無処理区と比べて徒長枝が約4割減少し、そのせん定に要した時間は約半分と、労力軽減の効果が確認できた。



徒長枝のせん定作業の様子

表 徒長枝の発生数及び所要時間（1樹当たり）

	徒長枝の発生数(本)	(増減率)	処理時間(分)	(増減率)
摘心処理区	42.7	(△41%)	16.9	(△54%)
無処理区	72.0		36.4	

- 当室は、調査結果を生産者へ周知するとともに、引き続き摘心処理による作業性や結実等への影響など年間通した調査を行い、作業の省力化を進めていく。



せん定前の摘心処理樹（左）と無処理樹（右）

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■職人の知恵と技で新しい商品づくりに挑戦

- 地域農業育成室は、地域の特産である柑橘を利用した商品開発や販路開拓支援などの起業活動を支援している。
- 企業組合高野地フルーツ倶楽部（R 2. 7 設立）は、当室が紹介した百貨店バイヤーからアドバイスを受け、商品化したマーマレードのブラッシュアップや、果汁や果皮などを加工原料とした新商品づくりに取り組んでいる。
- 今回は、菓匠青柳正家（東京都墨田区向島、代表取締役須永友和氏）に河内晩柑の果汁とマーマレードを利用した菓子の試作研究を依頼した。1月27日に、同氏が試作した「河内晩柑の桃山」「河内晩柑の餅パイ」「河内晩柑の水菓子」「河内晩柑の砵巻き（きぬたまき）」の4品を試食するとともに、Web会議を利用して製造のポイントを学んだ。商品製造は、今後も同氏からオンラインで技術指導を受ける予定である。
- 当室は、商品開発等による首都圏への販路拡大を検討し、今後も経営強化を支援する。



河内晩柑を利用した試作品



試食する高野地フルーツ倶楽部のメンバー

### ■人材投資資金受給者サポートチーム巡回指導

- 地域農業育成室は1月18日から2月3日にかけて、八幡浜市の農業次世代人材投資資金のサポートチーム員（県・市・JAで構成）として、資金受給者57経営体64人に対し、農業経営状況の聞き取りを行った。園地での栽培状況確認に加え、経営状況、昨年との生産量・販売額の増減、計画に対しての達成状況、困っていることなどを聞き取り、必要に応じた指導をしている。
- 園地確認時に、認定農業者制度の案内も行い、受給終了後、地域の担い手として更なる農業経営の安定が図れるよう進めている。



ぶどう園での農業経営状況確認

## ■スマート農業加速化実証プロジェクト 甘平栽培実証について

- 地域農業育成室は昨年度から、JAにしろわ、企業、果樹研究センターと連携してスマート農業加速化実証プロジェクトに取り組んでいる。温州みかん5園地と施設甘平3園地の実証ほ場に気象ロボットを設置して、環境モニタリング(①温度②湿度③雨量④日射量⑤土壌水分⑥土壌温度⑦土壌EC⑧固定カメラ)と栽培技術を組み合わせて、点滴栽培による高品質安定生産を目指している。
- 温州みかんではマルドリ栽培を実証し、昨年12月に調査が終了した。その結果、実証前の平均収量より14%増の6,545kg/10aであった。
- 甘平は、1月12日に各園地のモデル樹3本を収穫し、果実品質などを開発中のAI選果機で分析した。平均収量33%増の2,933kg/10a、裂果率15.7%であった。また、糖度13度以上の割合が50%を超える実証ほ場が2園地あった。
- 当室では、発芽期から成熟期までの果実肥大、糖酸分析、裂果状況などきめ細かな調査を実施し、そのデータを取りまとめ、次年度もデータの収集を継続しながら今後の栽培管理の指標として活用していく。



施設甘平の収穫



AI選果機による選果風景

## 南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■就農を目指す研修生へ経営の基礎習得を支援

- 大洲農業指導班は1月20日、(株)Pi-Nokyo たいき\*で農業経営研修を開催した。
- 同法人は、就農を希望する研修生2名を受け入れ、栽培技術や農業の基礎知識習得に向けた研修を実施しており、今回は当班職員が講師として農業経営の基本となる記帳と分析について指導した。
- 受講した研修生は独立就農を目指していることから、農地や機械などを新たに取得する必要がある、親元就農に比べてより高い経営的な意識を持つことが重要であるため、「中古品の減価償却の考え方は」、「借入金の処理は」など具体的な質問があり、知識習得に意欲を見せていた。
- 当班は、令和3年度中に就農を目指す2名の研修生に対し、技術・知識の習得とともに、資金利用や事業活用などの情報提供や経営計画策定の支援を行っている。



熱心に受講する研修生

※(株)Pi-Nokyo たいき：JA愛媛たいきの出資型法人(平成31年2月設立)。イチゴ、ぶどう、かぼちゃなどの生産に加え、新規就農者研修を行う。

## 南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■確定申告に向けて、新規就農者が基礎知識を習得

- 西予農業指導班は1月21日、西予市と連携して農業次世代人材投資資金受給者14名を対象に確定申告基礎講座を開催。
- 税理士から、確定申告の基礎知識や消費税、決算の流れなどの他、経費になるもの・ならないものの具体例や減価償却のタイミングなど、日々の記帳の注意事項について説明があった。
- 参加者からは、経営継続補助金の記帳方法や仕入れ販売の取扱いなど具体的な質問があり、熱心に受講した。
- 当班は、生産者の経営安定を目指し、新規就農者の意向をくみ取りながら個別指導や研修会の開催などにより支援していく。



新規就農者が基礎知識を学ぶ

### ■グリーン・ツーリズム「炭焼き」体験メニューの指導ポイントを確認

- 西予農業指導班は1月25日、グリーン・ツーリズムを推進するため、西予市野村町の里山づくり炭焼隊と「炭焼き」を実践し、指導ポイントを確認した。
- 同炭焼隊は、平成24年に炭窯を製作し、炭焼きを体験メニューに登録している。定期的に炭焼きを行っているが、技術の伝承と体験者に魅力を効率的に伝えるため、当班は炭窯製作と炭焼工程をマニュアル化し、体験時に活用することとした。
- 今回は、マニュアルの内容と木の積み方、焚口の調整、煙の色の変化といった炭焼きのポイントを確認した。今後、体験メニューをPRするとともに、木炭や竹炭焼の体験受入時に活用する。



焚口の調整



炭焼き窯に火入れ

## ■農産加工品の実演販売「かかCの市」で「ひな豆」づくりを伝承！

- 西予農業指導班は、食農教育に取り組んでいる西予生活研究協議会の活動を支援しており、1月31日、どんぶり館で同協議会が実演販売する「かかCの市」で「ひな豆」を配布し、西予の食文化伝承に取り組んだ。
- 「かかCの市」は同協議会が昭和59年から始めた産直活動で、現在は毎週日曜日に寿司や惣菜類、蒸し饅頭などの実演販売を通じた消費者交流の場となっている。
- 今回はコロナ禍で「食文化普及講座」の開催が難しいことから、この市を活用してレシピ付きの「ひな豆」を配布し、作り方を説明することで郷土食への関心を高めた。
- 消費者からは「家庭でも作ってみたい」といった声も聞け、食文化伝承につながった。



レシピ付きの「ひな豆」



購入者に「ひな豆」を配布

## 南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■台湾の消費者に届け！えひめの甘平

- 産地戦略推進室は1月9～20日、甘平の台湾輸出について、ブランド戦略課、JAにしようわと連携して、輸出用果実の選果、箱詰め作業を支援した。
- 今年は2月12日の春節前の1月22～24日に現地で愛媛フェアを開催するため、3戸の農家が生産した果実は6回に分けて箱詰めして、2.3tを輸出した。輸出業者の(株)裕源等を通じて、現地の高級スーパーや百貨店で販売された。
- また、出荷に先駆け、1月6日には、在日台湾人YouTuberを産地に招き、生産状況を取材。撮影した動画はYouTubeで配信され、台湾の消費者にえひめの甘平がPRされる。
- 当室は海外輸出の支援を通じて、新たな販路としての定着と産地のブランド力強化を目指す。



輸出用甘平の箱詰め作業



YouTuberによる甘平の産地取材

### ■「南予マルシェ」を八幡浜で初開催！

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は1月8日、八幡浜市新町商店街の八日市に合わせて、「第4回南予マルシェ」を開催。
- 今回は、「道の駅清流の里ひじかわ」、「道の駅八幡浜みなと」の産直施設に加え、6次産業化に取り組んでいる松野町の「菓子工房 KAZU」が出店し、ハクサイ、ダイコン等の旬の野菜に加え、梅加工品やスイーツなどを販売した。
- 当日は、寒波の影響で来場者は少なかったものの、八幡浜市では初めての開催であったことから多くの地元住民が関心を示し、新鮮な野菜や普段販売していない地域外の加工品などを買い求めた。
- なお、当日の様子は八西CATVでも放送され、情報発信を通じて今後の集客にも繋げた。
- 第5回は、2月15日に宇和島市恵美須町商店街で開催予定。適切な感染防止対策を実施した上で、コロナ禍での新しい生活様式に対応したイベントとして定着させ、地域農産物の販売促進と生産者の所得確保に努める。



栗やイチゴを使ったスイーツは好評



## ■八幡浜生まれ 幻のみかん「川田温州」を地元の消費者にPR

- 産地戦略推進室は1月8日、八幡浜市新町商店街で開催された南予マルシェで、産地化を進めている川田温州のPR活動を行った。
- 川田温州は、隔年結果性が大きく栽培が困難なことから、生産量は約30t（2ha）とまだまだ少なく、主に首都圏で販売されているため、地元ではほとんど流通していない。
- 当日は、地元消費者に果実を知ってもらうため、食味や認知度に関するアンケート調査を実施するとともにPRパンフレットを配布し、地元で生まれた温州みかんであることを紹介した。
- 食味に関しては、普段、みかんを食べ慣れている地元消費者からも高い評価を得たものの、初めて知る川田温州に、「こんな品種があるの?」「今後、気にしていきたい」という声も聞かれた。
- 当室は今後も、安定生産技術の普及による生産拡大と合わせて、消費者へのPRによる認知度の向上に努め、生産者・消費者からも愛される川田温州の産地化を目指す。



地元消費者に川田温州をPR



川田温州のPRパンフレット

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■生産現場と県の指導機関とを映像で結ぶ通信試験を実施

- 高度普及推進グループは1月19日、今年度整備した通信システム「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」を使った生産現場と県の指導機関とを結ぶ通信試験を初めて実施。
- 当日は、当グループの若手普及指導員が伊予市と四国中央市にある野菜の栽培ほ場を訪れ、植物体に現れた病徴をスマートフォン等で撮影。現地から送られる映像を、県庁農産園芸課と農林水産研究所の病害虫を専門とする職員がリアルタイムで確認し、撮影方法を指示しながら、診断や助言等を行った。
- 様子を見守った農家は、「病害虫の防除は対処が遅れるほど被害が大きくなるので、大勢の人に見てもらい、診断の時間を短縮できるメリットは大きい」と、システムに対する期待感を示していた。
- 当グループは、このシステムを活用した病害虫の遠隔診断の実証試験にも取り組んでおり、生産者に対し高度な診断結果が迅速に提供できるよう、スマートフォンやデジタルビデオカメラなどの機器を利用した撮影方法や遠隔診断のポイント等についてのマニュアル化を進めている。生産現場からの映像を当グループと農林水産研究所の担当者等が各機関で確認しながら、遠隔診断の手法や診断上の問題点等について検討している。
- 診断時に送受信される映像データ等は、職員が検索、閲覧できるデータベースとして、同システムのサーバーに記録されることから、映像データの活用を通して普及指導職員の人材育成等にも取り組むこととしている。



スマートフォンを使用した現地映像の送信



現地から配信された映像  
(タバココナジラミ)

## ■いちご生産における高収量をあげる生育パターンを解析

- 高度普及推進グループは、いちご生産で県下で著しく高い収量をあげている生産者の栽培実態を調査し、7t/10a以上の高収量を得るための生育、収量パターン等を解析している。
- 昨年度、西条市で行った、JA共販で県内トップの8t/10a以上を収穫した生産者のほ場（土耕）等の調査では、頂花房の花数は他のほ場と大きく変わらないものの、第2花房では2芽となり30以上の果実を着果させ、更に冬季の低日照下においても、第3花房では3～5芽を連続出蕾させ、第3花房までに合計で70以上の充実した花を確保していること等が分かった。
- また、開花数、平均果実重、定植本数及び株のばらつきや不受精果の発生のロス等を加味した上で、これらほ場の収量を試算すると、3月末までに5～6tの果実が、第4花房以降を含めると、今作も7～8t以上の果実が収穫されるものと見込まれた。
- 一方、当グループが同市で実証を行っている新規規格のいちご高設栽培システムでも、低日照期までに十分な根量及び葉面積を確保したこと等により、今回調査した高収量ほ場と同等以上に生育しており、高設栽培においても同等の収量を確保できることを確認している。
- 当グループは、引き続き高収量ほ場の生育を調査するとともに、普及指導員とJA営農指導員を対象に2月に開催する現地研修会でこれらの調査結果等を報告する。



県下最高収量ほ場では冬季でも豊富な花数を確保  
(西条市)



同程度の花数を確保している新システム区（左）  
(西条市)

## ■優良さといも種芋の確保に向けた分割種芋の貯蔵試験と寒波襲来時の地温調査

- 高度普及推進グループは、さといも種芋に適した貯蔵条件等を明らかにするため、専用庫での貯蔵試験を12月から開始し、貯蔵中の芋重や腐敗状況等を調査している。
- これまでの調査で、収穫後に芋を分割した際にできるかぎ口の乾燥処理が十分でない場合は、かぎ口から軟化し腐敗する芋が一部発生したのに対し、乾燥処理を行い傷口をコルク化させた芋は、これまでに腐敗の発生はなく状態は良好で、芋重の減少も貯蔵1カ月で3%程度に留まること等が確認されている。
- また、強い寒波の襲来で低温となった1月8日以降、比較的温暖な農林水産研究所の種芋ほ場等で、種芋が位置する深さの地温を測定したところ、早朝時に外気温よりも2~3℃高く保たれているものの、さといもの低温障害リスクが高まる5℃を大きく下回っていること等を確認した。
- 当グループは、3月の定植時期まで貯蔵試験を行った後、定植するなどして生産力を調査するとともに、種苗会社等とも連携し優良種芋の安定供給体制の構築を目指す。



十分な乾燥処理をせず貯蔵した芋のかぎ口の腐敗（1月22日：大洲市）



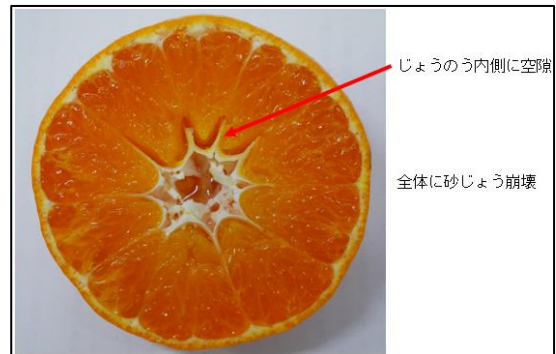
種芋ほ場における寒波襲来時の地温調査（1月8日：農林水産研究所）

## ■寒波襲来による柑橘類の寒害果の発生調査について

- 寒波襲来により1月7日から10日にかけて低温が続き、農作物は南予で最大56時間、中予で同33時間、今治で同35時間にわたって氷点下に長時間遭遇したことから、高度普及推進グループは、1月8日から13日にかけて、甘平等が栽培されているほ場及び果樹研究センター等において果実への影響に係る現地調査を実施した。
- 寒気が停滞する園地や低温の影響を受けやすい樹冠外周部では、果皮の軟化や果実内部の砂じょうが崩壊して果汁が内部で流出するなど寒害の発生を確認。調査結果を各普及拠点へ周知するとともに、迅速かつ的確な寒害調査等を支援した。
- 当グループでは、引き続き普及拠点と連携して、甘平やせとか等の中晩柑類の寒害発生状況を注視しながら、低温の影響が大きかった地域等の適正な出荷や、次年度の安定生産に向けた樹勢回復、着花（果）対策等の推進を図る。



普及拠点との被害調査（宇和島市）



寒害が発生した果実（甘平）

## ■若手普及指導員を対象にした第2回流通販売研修「売れる加工品づくり」の開催

- 高度普及推進グループは12月23日から1月8日にかけて、各地方局・支局の地域農業育成室及び産地戦略推進室の若手普及指導員等を対象とした「流通販売を見据えた加工品づくり」を習得する研修会を、各局で開催した。
- 延べ40人の職員が参加した今回の研修では、売れる加工品づくりのための製造過程の基礎からサプライチェーンの確立に至るまでのトータルの商品づくりを指導した。
- また、若手職員が直面している課題等についても個別相談等を行っており、コロナ禍における県産品の新たな流通販売ルートの開拓等を目的とする次年度の普及組織先導型戦略的産地育成事業の研修計画等を説明し、事業への積極的な参加を促した。



売れる加工品づくり研修の様子(中予地方局)



研修後の加工品の助言指導(今治支局)

## 農産園芸課 企画調整グループ

### ■農業改良普及事業に関する外部評価委員会を開催

- 農産園芸課は1月14日、農業改良普及事業に関する外部評価委員会を開催した。
- これは、効率的・効果的な普及活動の推進に資するため、普及事業関係以外の外部関係者に客観的に普及活動について評価いただくもので、今年度は、「産地を支える多様な担い手の確保育成」をテーマに、委員が選定した、「農業プロによる担い手の育成」(東予地方局)、「農業女子会の結成と優れた女性農業経営者の育成」(中予地方局)、「日本一のみかん産地維持のための経営モデル育成と園地集積」(八幡浜支局)の3課題について、担当者の説明と質疑応答により評価いただいた。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加者を制限し、委員会の様子を各普及拠点等に配信した。
- 今後は、2月に現地調査をリモートで実施し、3月に農産園芸課ホームページ上に外部評価報告書を公表する。



質疑応答の様子



映像配信の様子

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543